

香川県の紹介

都道府県指導者養成研修 (緩和ケアチーム研修企画)

都道府県内の紹介フォーラム

香川大学医学部附属病院

村上あきつ 石川一朗

水川奈己 植松和世

都道府県内の情報

都道府県名：

• 総人口	93,5315人 (2022年7月現在)
• 高齢化率 (65歳以上が総人口に占める割合)	31.8% (過去最高)
• がん患者死亡者数	3001人 (24.6%)
• がん患者の自宅死亡割合	9.9%
• がん診療連携拠点病院数 (厚生労働省指定)	5
• 緩和ケア病棟のある病院数	3
• 在宅療養支援診療所数	18
• 都道府県の特徴 (自由にご記載ください)	

都道府県がん対策推進計画に記載された 緩和ケアに関する主な目標や取り組み

(個別目標)

・がん診療に携わる医療機関において、身体的な苦痛に対して十分なケアを実施するとともに、精神心理的・社会的苦痛にも対応できるよう、基本的な緩和ケアを実施できる体制を整備する。

・拠点病院や医療機関は専門的なケアを行う緩和ケアチーム等の充実を図る。

・がん患者とその家族が、必要なケアを受けることで、痛みやつらさが軽減され、質の高い療養生活を送ること

(数値目標)

①緩和ケアチームを有するがん診療を行う医療機関数
12病院→15病院

②緩和ケア病棟(病床)を有する病院数4病院→5病院

(平成30年3月)

都道府県内の緩和ケアに関する重要な 課題・問題

・第3次香川県がん対策推進計画
中間評価(令和4年3月)より

数値目標①

12病院→12病院(現状維持)

数値目標②

4病院→3病院(悪化)

#若手医師の人材育成

#在宅緩和ケア診療の充実

#緩和ケア診療の地域偏在

都道府県内の緩和ケアを進めるための これまでの取り組み

・それぞれのがんの特性や 世代に応じた対策

(必要な医療や支援が受けられる環境
の整備)

①令和元年度より小児・AYA世代に対する
妊孕性温存治療費の一部助成

②対象者が適切な妊孕性温存治療を受
けられる体制整備・相談支援体制の確
保

- 1) 拠点病院、生殖医療実施期間等によるがん・生殖医療連携ネットワークを構築
- 2) 医療従事者・相談対応者向け妊孕性温存療法に関する研修会開催

③在宅医療・介護連携の推進

- 1) 地域の医療機関において在宅医療に携わるコーディネーターの養成
- 2) 多職種連携を図るための研修会開催
- 3) 在宅医療・介護を担う人材の育成

④小児がん中国・四国ネットワークへの
参加・連携(広島大学病院、四国こども
とおとなの医療センター)

都道府県内の緩和ケアを進めるための これまでの取り組み

⑤香川県がん診療連携協議会

(各拠点病院・県で構成)

1)緩和医療部会の設置

- ・情報共有や意見交換
- ・県内緩和医療体制の整備
- ・緩和ケアの推進

⑥がん相談支援・情報提供体制の充実

1)拠点病院における相談支援事業等の 費用補助

2)社会保険労務士、美容師等の専門家の 派遣(拠点病院院内サロン)

3)拠点病院・相談対応の従事者を対象と したピア・サポーターの活用に向けた研

修

⑦社会連携に基づくがん対策・がん患者の支援

1)地域連携クリティカルパス・私のカルテ の運用

2)人生の最終段階における医療・ケアに関する医療従事者研修・県民 向け公開講座

⑧香川県地域両立支援推進チーム (香川労働局等労働関係機関、拠点 病院、県)

1)仕事と治療の両立支援のための ガイドライン、企業・医療機関連 携マニュアルの浸透

都道府県内の緩和ケアを進めるための これまでの取り組み

⑨公的支援制度のない20歳～39歳の若年がん患者に対し、がん治療による外見変貌を補完する補正具購入費用の助成(令和4年より)

⑩医療従事者の育成

1) 中国・四国高度がんプロ養成基盤プログラム

2) 拠点病院におけるがん診療・緩和ケア・相談支援等の研修会

⑪WEBカンファレンスの開催

⑫緩和ケア研究会

都道府県内の緩和ケアを進めるために 今後取り組みたいこと・検討したいこと

- ・拠点病院、地域医療機関、緩和ケア病棟、在宅診療間の連携、情報共有、まずは関係性の構築とその方法
-

香川県 実施計画の概要立案

2022年度 都道府県指導者養成研修 (緩和ケアチーム研修企画)

2022年度 都道府県指導者養成研修 (緩和ケアチーム研修企画) フォローアップ研修

都道府県内の緩和ケアの現状

都道府県内の緩和ケアに関する課題・問題

- ・県内の人材把握、緩和ケアのリソースの把握が不十分
- ・拠点病院としての発信していく力の不足
(院内外の調整役としての役割の強化)

- ・ちょっと敷居を下げる工夫、ニーズの把握、現状の把握の必要性
- ・拠点病院間・病院間・在宅診療所間の連携強化の必要性
- ・人材のまとめり構築の困難感

- ・地域での知識の底上げ(勉強会→連携に繋がる)
- ・人材育成(次の世代に繋ぐための工夫)
- ・施設間レビューなどウェブを利用した活動の活発化



とにかく参加しやすい交流の場づくり！

都道府県内の緩和ケアの質向上に向けた 今後の方向性

都道府県単位の取り組みで目指したいこと (ゴール)

県内の拠点病院 & 拠点病院以外の緩和ケアチーム、在宅緩和ケアの連携強化

香川県の緩和ケアにかかわる「地力」を把握し、点在するリソースを繋げる
「ちょっとしたこと」を情報交換できる、「顔見知りの距離感」の構築をめざす

都道府県単位の取り組みで扱いたい内容と方法

- ・ 2022年内のニーズ把握（アンケート調査）
 - 施設毎のニーズ（困りごとの抽出→あえて1回目はがん疼痛に絞る）
 - 向こう1年間で関係性構築 → 地固め
 - チームの中心となる看護師の把握 → 各施設内に発信してもらう
- ・ 香川大学病院 緩和ケアチーム研修会（2023年中盤）
 - 知識の伝達 < 参加型交流（場づくり（対面）） = ニーズの把握に繋がる
- ・ 医療支援課との連携（調査票の発送、学習会の案内）
 - これまでの緩和ケア学習会の案内の対象を、これまでよりもう少し緩和ケアに携わっている医療者に焦点を当ててみる
- ・ 紹介先のリソース（医療・人材）の把握を兼ねた交流
- ・ 緩和ケア部会（拠点病院）の年間PDCA緩和ケア目標（疼痛コントロール）も盛り込む

企画概要

企画名

第1回 香川県緩和ケアお困りごと相談 つながるカフェ
テーマ「がん疼痛についてちょっと情報交換しませんか？」

目的

県内の緩和ケア医療者の緩和ケアにおける問題点の抽出と相談できる場の設定

目標

県内緩和ケア医療従事者の連携強化

対象者・人数

対象者：県内の緩和ケア医療従事者

人数：50人程度 10施設を想定

地域がん診療拠点4×4 (医師・看護師・薬剤師・MSW)

拠点以外5×4 在宅5×2 ファシリテーター (香川大学)

開催期間・時間・開催形式

土曜日 14:45～17:30 対面形式GW (企業共催あり)

①職種別 (40分) ②所属施設・チーム別 (40分) ③全体まとめ (30分)

実施主体

香川大学医学部附属病院 緩和ケアセンター

プログラム

1日目

開始	終了	時間	研修方法	内容
14 : 45	15 : 00	15分		薬剤説明（共催企業）
15 : 00	15 : 05	5分		開会のあいさつ、会の趣旨説明
15 : 05	15 : 25	20分		セッション1：所属施設・チーム単位の自己紹介 （2分×10施設を想定）
15 : 25	16 : 05	40分	GW	セッション2：職種別（40分）
16 : 05	16 : 10	5分		席替え、休憩（5分）
16 : 10	16 : 50	40分	GW	セッション3：所属施設・チーム別（40分）
16 : 50	16 : 55	5分		席替え、休憩（5分）
16 : 55	17 : 25	30分		全体まとめ（30分） 所属施設・チーム単位のプレゼンテーション（感想など） （3分×10施設を想定）
17 : 25	17 : 30	5分		閉会のあいさつ

セッション 1

日時	2023年9月30日(土) 15:05~15:25
場所	香川大学医学部附属病院 西7階カンファレンスルーム
セッティング	対面形式
担当	香川大学医学部附属病院 緩和ケアチーム
用意するもの	机、椅子、マイク、名札

【目標】

県内緩和ケア医療従事者の活動内容紹介、困難感の把握

【事前準備】

「がん疼痛コントロールで困ってること」を持ち寄ってもらう
(便利なツールがあれば情報提供していただいてもよい)

【会場準備】

名簿作り、名札(施設・職種・名前)、机・椅子の準備、立て札(施設名)

【すすめ方】

- ①自施設の立て札がある机に集まってもらう(各机にファシリテーターを配置)
- ②自施設の活動紹介と、今回聞きたいことを順番に発言してもらう(各施設2分間)

【セッションでの留意点】

ファシリテーターは参加者ができるべく発言できるように話題をふるが、発言を強要しなくてもよい

セッション 2

日時	2023年9月30日(土) 15:25~16:05
場所	香川大学医学部附属病院 西7階カンファレンスルーム
セッティング	対面形式
担当	香川大学医学部附属病院 緩和ケアチーム
用意するもの	机、椅子、マイク、名札

【目標】

職種別のがん疼痛コントロールに関する困難感の共有、顔の見える関係の構築

【事前準備】

特になし(テーマに沿ったフリートークのため)

【会場準備】

机・椅子の準備、グループ編成(職種別)、立て札(職種名)

【すすめ方】

- ①5-6人の小グループに分ける(各グループにファシリテーターを配置)
- ②自己紹介と、がん疼痛コントロールでの困り毎について発言してもらう
- ③テーマに沿ったフリートーク

【セッションでの留意点】

ファシリテーターは参加者ができるべく発言できるように話題をふるが、発言を強要しなくてもよい。医師・看護師以外の職種の発言のしやすさに配慮して職種別セッションとした。

セッション 3

日時	2023年9月30日(土) 16:10~16:50
場所	香川大学医学部附属病院 西7階カンファレンスルーム
セッティング	対面形式
担当	香川大学医学部附属病院 緩和ケアチーム
用意するもの	机、椅子、マイク、名札

【目標】

セッション2(職種別)で得た情報などを所属施設メンバーと共有する

【事前準備】

特になし(テーマに沿ったフリートークのため)

【会場準備】

机・椅子の準備、立て札(施設名)

【すすめ方】

- ①自施設の立て札がある机に集まってもらう(各机にファシリテーターを配置)
- ②セッション2で他施設スタッフと話し合った内容を共有し、自施設内や地域として取り組みそうなことを自由に話し合う(地域連携に関する要望でもよい)

【セッションでの留意点】

ファシリテーターは参加者ができるべく発言できるように話題をふるが、発言を強要しなくてもよい

研修の評価

【実施評価】

参加者数(施設別、職種別)

【結果評価】

アンケートによる調査

- ・発言のし易さ
- ・各自の困り事を相談できたか？

【企画評価】

アンケートによる調査

- ・本企画の改善点
 - ・同じ形式で再度参加を希望するか？
 - ・次回企画で取り上げてほしいテーマ
-